

第七号に寄せて

高 木 厚 人

早いもので『大東書学』も第七号までこぎつけました。母体となる書道学科は世の認知を受け、大東文化大学の看板の一つとなっています。卒業生達はそれぞれの場で活躍し、その成果が目に見えはじめてきました。

大東書道学会も春の大会での発表、秋の研修会、そして学会誌刊行と軌道に乗ってきました。日ごろの本学会に対する会員皆さんの努力のおかげです。今後ともさらなるご支援を期待いたします。